

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
453	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Binge drinking, drinking frequency, and risk of ischaemic heart disease: a population-based cohort study. 大量飲酒、飲酒頻度と虚血性心疾患のリスク：地域住民を対象としたコホート研究	
<b>執筆者</b>	
Skov-Ettrup LS, Eliassen M, Ekholm O, Grønbaek M, Tolstrup JS.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Scand J Public Health. 2011 Dec;39(8):880-7.	
<b>キーワード</b>	
短期間の大量飲酒、軽度から中等度の飲酒者、一般集団、虚血性心疾患、総死亡	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b>                      軽度から中等度のアルコール摂取は、虚血性心疾患（IHD）のリスク減少に関連している。しかしながら、大量飲酒者における短期間のがぶ飲みは IHD リスクを増加させると示唆されている。相反する2つの知見より、軽度から中等度のアルコール摂取範囲内での”がぶ飲み”が、今後の調査では重要なポイントになる。</p> <p><b>方法：</b>                      一般集団のコホート研究で 1994 年、2000 年、2005 年に実施された the Danish National Cohort Study の参加者のうち 26,786 人の男女を対象とした。軽度から中等度の飲酒者（男性 ≤21 杯/週未満、女性 14 杯/週未満）における短期間のがぶ飲み (&gt;5 杯/日) と IHD および総死亡リスクを調査した。研究対象者全体では、飲酒頻度と週当たりアルコール摂取量を合体または分けたものと IHD または総死亡リスクの関連を調査した。</p> <p><b>結果：</b>                      平均追跡期間 6.9 年の間に 1,136 人が IHD を発症した。男性の軽度から中等度の飲酒者では、大量飲酒をしない者を対照として機会大量飲酒(短期間のがぶ飲み)における IHD のハザード比 (HR) は 0.81 (95%信頼区間(CI) 0.61-1.08)、同様に女性では、0.97 (95%CI 0.54-1.76) だった。頻度では、女性の週 5-6 日飲酒者の IHD リスクは、週 1-2 日飲酒者に比べて低かった (HR 0.54 95%CI 0.32-0.90)。しかし、週当たりの飲酒量と飲酒頻度を組み合わせても、いかなる傾向も見いだせなかった。</p> <p><b>結論：</b>                      軽度から中等度のアルコール摂取者における短期間のがぶ飲みは IHD または総死亡リスクと関連がみられなかった。全体として、飲酒頻度は IHD と総死亡リスクの重要な決定要因ではないようにみえた。</p>	